みづきちゃんアガってる!?

フルカラー版

Super Real Mahjong PV ONLY BOOK

威風堂 2023

SUPER REALMAHJONG PV

●まえがき●
・こんにちは威風堂です。
コミケ100という事で参加しました！お題は『スーパーリアル麻雀P5』の遠野みづきちゃんオンリーとなりました。
原作は1994年・・・執筆陣もまだ若くハジけていた時期でもありました。私がコミケにはじめてサークル参加した頃でもあります。
そんなみづきちゃんオンリー本をお楽しみくださいー。
（中野ら～めん）

たまつやだ：表紙・P03～P14／じゃっじ：P15～P21
杜若某：P22／中野ら～めん：テキスト＆編集

『遠野みづきはイカサマと知りながら麻雀勝負に負けている』

TXT:中野ら～めん
ILS:たまつやだ

「えへ・・・えぇ・・・また負けちゃったのぉ」
麻雀同好会のひとりである遠野みづきがバツ悪く俺に笑いかける
今日こそは彼女をヤッてやる。
俺はそう意気込んで彼女の戦術を頭に叩き込み
そしてある『おまじない』を仕掛けて挑んだ
どうやらその効果は抜群であり、彼女の脱衣を一気に進める事が出来た。
まいったなぁ・・・まさか最後の勝負で役満を振り込むなんてぇ
役満なんて初めてだ。
「さぁ・・・脱いでくれよ・・・・いつもみたいに・・・・」
俺は鼻息荒く彼女に言う。
「もう・・・解ったわよ。今日は特別ね♪」
そう言って彼女の手がブラウスに掛かる
・・・ん？ブラウス？
いつもと違う違和感に、彼女は俺に語りかけた
「今日はブラしてるんだ・・・だって制服のままだったからぁ」
みづきは家ではいつもノーブラだ
しまった。俺が焦り過ぎたかでもいつもと違い初めて見る彼女の下着姿が俺の心にスイッチを入れた。

「ふふ・・・おっぱいが見たいの？
いつも見ているクセにぃ♥」
確かにみづきに勝った時には
彼女は躊躇なく見せてくれる
今日もいつものノリで少し照
れ臭そうに
ブラを外すと「ぼるんっ！」
という音と共に
その豊満な胸をさらけ出した
「すっげぇ・・・すげぇおっ
ぱいだよ！」
俺はいつも以上に感嘆の声を
上げる
「もう・・・ノセ上手
ね・・・♥」
確かに何度も見たおっぱいだ
ったが
制服からこぼれ落ちたその巨
乳には
いつも以上にたわわな感触を
感じた。
「もう・・・まだ触っちゃダ
メだよ♪」
ゆっくりと脱衣するみづきに
つい襲い掛かりそうになるが
それを見越したみづきが制止
する
「まだ・・・だよ♥」
お預けを喰った犬のような俺
の顔を見て
みづきはくすくすと挑発を続
けた

「え・・・お尻のアナが見たいの？」
最後の一枚を前に俺はみづきにリクエストをする。
みづきはシンプルな下着が好みであり
色違いはあるものの、いつも同じ計上のパンティを履いている
今日は気合のTバッグだ。その面積はあまりにも少ない。
それを脱がす機会はあまりないが、今回は特別だ
でもそれを脱がす前に自分からお尻を見せるように要求したのだが・・・
「そんな事見たいなんて・・・ちょっとヘンタイっぽいよ？」
みづきは少し抵抗を見せた
俺ははだめ・・・かな？と、少し甘えるように再度聞く
「うふふふ・・・しょーがないよ♪イイよ♥キミになら全部見せてあげる♥」
そう言ってみづきは後ろを向き
パンティのクロッチを指で摘み上げる。
Tバッグを履きなれているみづきには目焼けの境界線が無い。
「うふふふ・・・どぅ？見える？」
「ああ、お尻のシワまでくっきりだ・・・」
「ばか・・・♥へ・ン・タ・イ♥」
いじわるに微笑むみづきを見て俺は抑えられなくなり
彼女を抱きしめた。

「みづきっ！」
抱きしめるなり
俺は自分の陰茎をみづきの口
に突っ込む
「むぐ・・・・・うん・・・」
みづきもその行動に最初は抵
抗をしていたが
徐々に受け入れ、俺のイラマ
チオの動きに合わせ
自分の動きを始める
「あん♥・・・ちゅっ
♥・・・くちゅぅ・・・♥♥
♥」
「うぉ・・・お・・・温か
い・・・」
生ぬるい温度が俺のチンポを
包み込み
亀頭はみづきの舌ですっかり
覆われていた。
「じゅ・・・♥ぢゅる
る・・・♥」
気が付けば俺の動きを完全に
抑え
みづきのペースに呑まれてい
く
「うふふ・・・♥おチンポく
さぁ・・・とっても臭いわよ
お・・・・♥」
「でもとっても熱い・・・♥
これじゃすぐに出しちゃうつ
もり？」
そう言って彼女は俺の玉袋を
揉み始める
「うおお」
その刺激は俺の絶頂を強制的
に呼び起こされた。

どびゅ！びゅるるるっ！
俺はみづきの口内に精液を注ぎ込む
「♥！っんんん～♥♥」
最初は目を白黒させ、チンポを話すかと思われたが射精を呼び過ぎた反省からかみづきはそのまま口で受け止めた。
「ぷぁぁ・・・もう・・・いきなりすぎるよ♥」
「でも出したばかりなのにまだ硬い・・・カチコチのままなのね♥」
「悪い・・・つい思いがけず出しちまった」
「うん・・・♥でも良かったよ。アタシ、強くされるの・・・好き♥」
「ねえもっと触ってよ・・・♥今度はアタシの方を♥」
そう言ってみづきはパンティを脱ぎ、オマンコを俺に向けて見せつけ始めた。
「こっちのほうじゃ負けないんだから♥」
みづきの声は高揚している。
スイッチが入ったようだ

「うん・・・あん・・・♥
♥
ソコ♥いいよ・・・♥」
俺の指に合わせて
うねうねと膣内が蠢く
それは俺が動かすよりも早く
熱い膣内だ・・・しかもその
花弁からは少しすえた甘い香
りが漂う
彼女の唾液と吐息で部屋には
色香が充満していった。
「もうちょっと・・・♥オク
まで欲しい・・・♥♥」
膣口の入口を弄る俺の指に
みづきがじれったくなったの
かおねだりを見せる
「もう・・・♥我慢できない
ヨ・・・♥♥♥」
俺は指の出し入れを早め
彼女のリアクションを伺う
「んっあっあっ・・・ぁあん
♥」
指を素早く、そしてより奥ま
で入れると
彼女の吐息が早くなり
徐々に膣内も柔らかく解され
ていく
「うん・・・・あっはぁぁん
♥♥♥」

「んひぃ・・・♥イクっイっちゃうぅぅ！♥♥」
膣口が急激に締り始め、それに合わせ俺の指を奥まで吸い込もうとする
その感触に恐れ俺は指を抜き取った
その刺激がみづきの性感帯を刺激する
「やっやぁぁぁん♥♥」
抜いた指先から水気が一層と押し上げてきた。
「♥♥♥ひゃぁぁぁぁぁん！♥いやぁん！♥♥もうっ♥おしお吹いちゃうぅぅん！♥♥」
指先の熱さは最高潮に達し、みづきは愛液を吹き散らかす
「もぉ・・・♥だめぇ・・・♥♥」
「恥ずかしい♥・・・♥♥こんな・・・♥♥」
どうやら指でイカされたのは初めてだったようだ
みづきは太腿を震わせ、大きく息をつき姿勢を維持するのに必死な様子でいた。

「ああっ♥こんな恰好・・・♥恥ずかしい・・・」
俺はみづきに挿入を試みるずにゅっとした肉の抵抗を越え彼女への交わりは驚くほど簡単に挿入に成功した。
「はぁぁん♥♥はいっちゃった♥」
「熱い・・・♥硬いわ・・・♥♥」
みづきも俺のチンポを気に入ったようだまだお互いのペースが掴めずぎこちない動きをお互いに探るもどかしい・・・でも夢中になる
俺はひくひくと蠢くアナルに指を這わせる最初はビクッと動くみづきだが、抵抗はしてこない。俺はそのまま容赦なく尻穴に指を挿れる
「うう♥っふぅ！♥」
強く抵抗するかと思いきや、尻穴はそのままずぶずぶと侵入を許すまるで自分の指が尻尾の代わりをした様になる。
「ふふ・・・まるで犬のようだよ尻穴が尻尾の様に動くじゃないか」
「いやぁん♥」
強烈に尻を振り尻穴の吸いつきは俺の指を放さない。その動きは膣内のチンポも出し入れする暇もない程に強く激しく蠢い続ける――

「何てイヤらしい女だ。愛してるよみづき」
俺の言葉にみづきの膣内は一層熱くなる。彼女の高揚も絶頂状態のようだ
「あたしも好きヨ・・・強いアナタが好きぃ♥♥♥」
膣穴にあふれる水滴が、より一層多くしたたっていた。
挿入を続けたまま、体位を変え、俺はみづきを抱え上げる
強く弾む乳房を抑えると俺はそのまま両手で包み込んだ
両の指でみづきの乳首をなぞり上げる
乳首は既に硬く、尖り上がっている。
「いやぁん。乳首ぃ・・・♥♥優しくコリコリしないでぇ♥♥♥」
どうやら乳首は彼女の性感帯のようだ
俺はその尖った角先を指で押し込んだり、つね上げてもて遊ぶ。
「あっ♥あっ♥♥やぁぁん♥♥♥」
大きな胸を揉みしだき
俺は背中から彼女の体重を愉しんでいた。

「んっはあっ！すっ凄い・・・気持ちイイ♥」
彼女を上に持ち上げた事により
みづきの豊満な身体は弾み
たんっ、たんっ、とリズミカルに上下する
俺も彼女の嬌声に流され腰の動きが早くなる
「す、凄いっ♥んはぁっオクまで・・・感じちゃう♥」
「はぁっはぁぁん♥♥アタシのナカで跳ね回ってるみたい♥」
彼女の満足そうな吐息が俺の性欲を増幅させる
だがまだみづきは何かしようと腰を動かし始めるが
俺が先行して二度・三度と突き上げると
「ううんっ・・・♥♥♥ひゃ・・・♥♥♥ひゃぁぁぁぁん♥♥♥」
身体の力が抜けていくように俺に身体を預けていた
「もうダメ・・・♥♥イッちゃう・・・♥♥イッちゃうよおおお♥♥」
もはやみづきは俺の思い通りに動く玩具の様になっていた。

今度は俺の番だ・・・
腰の動きを速め
絶頂まで精一杯の準備を進める
腰の動きに射精感の欲求が高まり
視線の先が真っ白になる。
「イック・・・ぞおおお！」
俺はみづきの膣内に思いっきりザーメンを注ぎ入れる
どびゅうううっ！びゅるるうう
うっ！
今までにないたっぷりとした
達成感を
そのままみづきの膣内に注ぎ込む
「ああ・・・♥あぁぁぁぁぁぁっ！♥♥♥」
射精の震えと共にみづきの身体もガクガクと震える。
彼女も同時にイッているのだ。
「あっやん♥そんなに・・・いっぱいぃぃ♥♥」
みづきの膣内に納まらない精液が隙間から飛び出してくる
「やぁぁぁぁ・・・♥漏れちゃう・・・♥♥♥」
「漏れちゃって♥るうう
う・・・♥♥」
みづきの身体は震えたまま大きく弓なりにのけぞっていた。

「はぁ・・・ゃん・・・こんなにいっぱいぃぃ♥」
自濁した精液を膣内一杯に受け
みづきの身体は息荒く上下していた。
どく・・・ドク・・・
彼女の膣口からは自分が出した精液が呼吸に合わせ少しづつ漏れ出してくる
「こんなに・・・されちゃったら♥もうワケ解んないよぅ・・・♥」
イキ散らかした彼女の口はだらしなく開き、放心している
俺はその口に自分のチンポをあてがい、そっと囁く
「ほらみづき・・・お掃除して」
「あン・・・♥♥ひどい・・・♥♥」
口では拒絶を言いながら彼女は自分から再び咥える
チンポの表面は自分の精液と彼女のマン汁が混ざり、何とも言えない香りを発する
「もう・・・ン♥・・・ちょっとしょっぱい♥」
「みづきの味だよ」
「ン♥・・・んん・・・やっぱり酷いわ・・・♥」
「でも・・・またシたいわ♥・・・今度はイカサマナシで私を組み伏してよ♥」
自分のしたことは既にバレていた。でも彼女は怒らない。
「麻雀だけじゃ♥物足りないのよ♥」
そう言って彼女は意地悪く微笑んだ。

（終わり）

【業務連絡】じゃっじ先生に
コメントをお願いしましたが
逃げられました・・・

スーパーリアル麻雀PV
キャラデザは
田中良氏。
田中キャラと言えば
TVアニメ・バーチャファイター
を思い出す世代。
アニメ主題歌「愛がたりないぜ」
は好きだったな〜。
ふと聴きたくなり、この原稿
は↑を聴きながら描きました!!
杜若某
2022.7.27
スーパーリアル麻雀全然語ってねえ

SUPER REALMAHJONG PV

それでは次回もゲーセンでお会いしましょう

・みづきちゃんアガってる!?・

冊子版 発行日：2022年8月14日（C100）
電子版 発行日：2023年3月21日
発行：威風堂
印刷：JC2 TAIYAKI
mail：nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・
本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。
上述の行為を発見舌際には速やかに法的処理を致します。
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。

威風堂 2023
SUPER REALMAHJONG PV
Judge Tamatsuyada Kakitsubata
Nakano Ramen

みづきちゃん
アガってる!?
電子版特典
カラーページ文字無し版＋差分

THANKYOU♥